

家族介護の危機

▽ 5

「ここ20年で「嫁の介護」が極端に減少した一方で老老介護と中年息子・娘介護が増えたことはすでに書いた。今回は介護をきっかけにした「夫婦別居介護」を考えてみたい。

◆熟年離婚

夫婦別居介護は「嫁に頼れない・頼りたくない」という親の本音と妻の「あなたの親でしょ」という言葉がきっかけになることが多い。しかしそれだけだろうか。介護をき

夫婦別居介護

つかけにした熟年離婚を調べると別居介護につながるような背景が浮かび上がる。

第一に「義理の父母との不仲」。嫁・舅姑とのこじれた関係が長年続いていたりする。しかし子どもが離れるまでは世話になることもあるのでガマンができた。正直、嫁

「これからは自分の人生を生きたい」だ。

第二の理由が「義理のきょうだいとの不仲」がある。介護となればきょうだいの嫌な義理の兄弟姉妹と相談事も増える。夫が長男だと「嫁がやって当たり前」という同調圧力に追い詰められることになる

コロナ禍で拍車かかる

の本音は「できれば介護までは勘弁」。やがて「離婚すれば介護をしなくていい」という結論に達すること。しかし表立ってしまつと子どもと親戚の手前よくない。そこで妻からの「熟年離婚」の申し出となる。その決まり文句が

「これは自分の人生を生きたい」だ。

第三が夫の非協力的態度。かつて夫が家庭内DVや浮気、パワハラなどをやっていれば熟年離婚はグッと身近になる。

夫が死亡後に妻が義父母や親戚との関係を断ち切りたい

選択肢の「死後離婚(姻族関係終了)」。これが増加傾向にある。背景に縁を切るのでも夫亡き後、義父母の介護から解放されることもひとつの理由と私は考える。

◆介護離婚でない選択

熟年離婚は子ども・孫たち

がストレスで身なりもかわなくなり日がな上下のスエット姿に。1年後に母は転倒で入院。退院後に施設に入所。担当のケアマネジャーが「もう東京に戻られても大丈夫です」と伝えると「いまさら遅い」と。その後、東京に戻るが一周忌にも姿を現さず親戚も行方はわからなくなったという。別居介護が夫婦仲を引き裂いた例である。

にも少なからぬ影響が出るので「別居介護」を選択した夫がいる。山形県S市。要介護2の母(87)を東京から通い介護していた定年息子(62)。子どもの学費と交通費がかかり過ぎると妻から責められ単身で同居介護をはじめめる。や

【ケアタウン総合研究所代表・高室成幸】